

記者会見

「トヨタ×NAPAC」の協業に関する記者会見に参加

9月4日 / モビリティリゾートもてぎ

トヨタ自動車（株）の主催によるモータースポーツを起点としたアフターパーツ業界との連携に関する記者会見（会見日：9月4日、会場：モビリティリゾートもてぎ）に、当会から高瀬会長（ブリッド）、長瀬理事（キャロッセ）が登壇し、「トヨタ×NAPAC」の協業について、当会の目的等を説明致しました。

当会ではこれまで、トヨタ自動車のGR86の開発連携、会員内覧会の実施、GR86/BRZ Cupでの会員申請パーツの指定/認定パーツ登録等に取り組んで参りました。

このほど、トヨタ自動車とモータースポーツというプラットフォームを活用し、アフターパーツメーカーと連携した取り組みを進める上でNAPAC参加企業との協業を模索することとなったことから、その記者会見に同席し、当会としての目的を改めて発信することと致しました。

記者会見はS耐第5戦もてぎが開催されたモビリティリゾートもてぎのサーキット内カフェで開かれ、当会からは高瀬会長、長瀬理事が登壇。トヨタ自動車からはGR企画部の南山部長、GR車両開発部の石井主任が出席し、S.T.O.の桑山事務局長も



記者会見で協業の目的を語る高瀬会長（写真中央）。左は長瀬理事、右は南山部長

同席されました。

会見では、南山部長がGR86でのNAPACとの開発連携、GR86/BRZ Cupにおける指定/認定パーツでの協業に加え、S耐ST4クラス参戦コスト低減の取り組みや次期車両開発へのアフターパーツ業界視点の意見折り込み等を進める考えを示しました。

一方、高瀬会長はトヨタ自動車との協業の目的として、オートアフターマーケットの中のカーカスタマイズ分野の活性化と、モータースポーツの更なる発展、安心安全な当会会員パーツの普及であることを説明しました。

また長瀬理事は「当会会員の指定/認定パーツの運用過程でマッチングの問題が分かる等、メーカー団体として得る部分は大きかった。今後に活かしたい」とのその意識を語りました。

会見はその後、報道陣との質疑応答を行い、南山部長が「自動車関係550万人が一丸となって課題に取り組む一環ととらえNAPACさんとの協業を進めていきたい」と締めくくり終了しました。

カスタムカーイベント

「北陸カスタムカーショー 2022in 金沢」に会員2社及びJAWA事業部が出展

9月3日～4日 / 石川県産業展示館

夏の終わりのカスタムカーイベント「北陸カスタムカーショー 2022in 金沢」（9月3日～4日、石川県産業展示館）に当会からコラント、辰巳屋興業、JAWA事業部が出展しました。

3年振りの開催となった本イベントは、カスタムカー関連企業45社が参加し、約100台のカスタムカーを展示。会期2日間で9,509人を動員しました。

出展会員によると物販が好調とのことで、早くも次回出展を検討するとの感想もありました。JAWA事業部では集客アンケート等を通じてPRに努めました。



北陸カスタムカーショー会場風景



コラント



辰巳屋興業



JAWA 事業部